

「ステイホーム」で活字を
読んだり、スマホを見たりし
ていると、目がピクピクする
ことがありますか。ひよっ
としたら「眼瞼(がんげん)はいれん」か
もしれません。

目が疲れたり、ストレスが
加わったりすると、目の周り
の筋肉がはいれんして目が開
けにくくなることがあります。
脳や神経の病気でも起こ
ります。よくはいれんする場
合には、脳神経内科で診ても
らうとよいでしょう。

脳に原因がなければ形成外
科で治療します。まぶたの周
りに神経をマヒさせる薬を注
射し、はいれんを抑えます。

似た病気で、目が開けにく

まぶたの異常

一筆



熊本赤十字病院
形成外科部長

黒川 正人

黒川 正人

2020.6.10

い「眼瞼(がんげん)下垂(かすい)」という病気も
あります。筋肉の力が弱くな
って目が開けにくくなる場合
や、皮膚が垂れ下がって起き
ることがありますが、長い間
コンタクトレンズを使ってい
ると起こることもあります。

物が見づらくなるだけでな
く、無意識に懸命に目を開け
ようと眉毛を上げるため、肩
こりや片頭痛が出ます。まぶ
たのたるんだ皮膚を切り取っ
たり、弱った筋肉を短くした
りする手術で治療します。
人間の顔で最も印象が強い

のが目です。目の手術を行う
と、顔の印象が少し変わるか
もしれません。しかし、視覚
は人間の感覚の中で最も重要
なもの。美容ではなく、あく
まで形成外科手術です。

目の周りは血管が豊富で、
手術すると1〜2週間はまぶ
たがはれて内出血します。医
者は「手術すれば痛みもあり
はれるのは当然」と思ってい
ますが、患者さんは初めての
経験で不安。医療が進歩し、
痛くない、はれない手術が可
能になると良いのですが。